様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ００７３１

研究課題名（和文）中近世キリスト教世界における宗教と暴力－対立と和解のポリティクス－

研究課題名（英文）Religion and Violence in the Medieval and Early Modern World

研究代表者
甚野　尚志（Jinno, Takashi）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：９０１６２８２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,300,000円

研究成果の概要（和文）：忠近世のキリスト教世界を対象にして、キリスト教、イスラーム教、ユダヤ教などの諸宗教が、現実の国家や社会との対立から生み出す暴力をめぐる諸問題について、中世のイベリア半島での「レコンキスタ」の問題、近世の宗教改革期の問題、近世の魔女狩りの問題、十字軍の問題など幅広く地域ごと時代ごとテーマごとに探求した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「9.11同時多発テロ事件」以後、「宗教と暴力」の問題は、西洋史研究の重要な問題の一つとしてみなされてきたが、これまでの研究では、ヨーロッパ中心主義的な政治思想、国家観念、市民社会論との関連から、近代化と暴力の封じ込めという視座から扱うものが多かった。それに対し、本共同研究は、中近世キリスト教世界の「宗教と暴力」の問題を、近代化と暴力の統制という目的論的な視座から離れて、「暴力」と「平和」の二項対立の図式からではなく、中近世キリスト教世界の「宗教と暴力」に関わる事象が提示する複雑に錯綜する様相を実証的に解明したことに学術的、社会的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：We explored various problems relating to the relations between religion and violence in the Medieval and Early Modern Christian World.

研究分野：中世ヨーロッパ史

キーワード：中近世ヨーロッパ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者の甚野尚志は、平成 25-28 年度に科研・基盤（A）「中近世キリスト教世界の多元性 とグローバル・ヒストリーへの視角」の共同研究を行ったが、その企画の一つとして、イタリアのトレ ントの「イタリア・ドイツ歴史研究所(Istituto Storico Italo-Germanico)」の研究員のフェルナンダ･アルフィエーリ(Fernanda Alfieri)博士を、2014 年の秋に早稲田大学に招聘し、「トレント公会議」の世界史的意義に関する国際シンポジウムを開催したが、その際の成果を引き継いで、トレントの同研究所で組織する中近世宗教史関係の研究グループとの共同研究を企画し、その後、トレントにある「イタリア・ドイツ歴史研究所」において、”Medieval and Early Modern Religious Histories :Perspectives from Europe and Japan” のタイトルのワークショップを、2014 年から 2016 年まで計 3 回開催し、イタリア側と様々な意見交換を行った。

その際、中近世世界キリスト教世界の宗教史の問題をめぐって多くの意見交換がなされたが、ヨーロッパの中近世史の学界において、「宗教と暴力」に関し様々な視角から多くの共同研究がなされている事実を知った。またトレントの研究グループの側からも、「宗教と暴力」をテーマとする共同論文集刊行の申し出があり、それを機縁にして我々は、中近世キリスト教世界における「宗教と暴力」のテーマを今後、取り組むべきテーマと考え,科研共同研究を組織することを考えた。このときに意見交換を行ったイタリア人の研究者グループとは、本共同研究中にもコンタクトをとり、様々な助言を得たが、彼らと共同研究の成果は、本科研の成果でもある英文論文集として結実した。

また、研究開始に際して、我が国における「宗教と暴力」に関する先行研究からも、大きな刺激を受けたことを特筆しておきたい。その代表的なものとしては、西洋法制史の専門家である一橋大学名誉教授の山内進が中心になり行った、近代国家と暴力をめぐる研究があるが、それは、「9.11 同時多発テロ事件」以後に高まった「文明の衝突」論をきっかけにして、ヨーロッパ中心主義的な政治思想、国家観念、市民社会論への批判という現代的な視座から「宗教と暴力」の問題が扱ったものであった(山内進『文明は暴力を超えられるか』筑摩書房、2012 年、山内ほか編『暴力 比較文明史的考察』東京大学出版会、2005 年など、参照)。だがそこでは、本研究が目指したような、中近世キリスト教世界に内在する歴史的な問題としての「宗教と暴力」のテーマは扱われていない。本共同研究は、我が国で山内進らが推し進めてきた法制史・政治思想史の視座からの暴力の先行研究を継承しつつも、より歴史学的な視座に立ち「宗教と暴力」の問題を「暴力」と「平和」の二項対立的にではなく、その複雑に錯綜する様相を実証的に解明することを考えた。

２．研究の目的

本研究は中近世のキリスト教世界を対象に、これまで地域やテーマごとに個別的に行われてきた「宗教と暴力」に関する諸問題を総合的に比較考察することにより、「宗教と暴力」に関わ

る歴史的な事象がいかに中近世キリスト教世界の社会構造を規定し、同時にそれが社会変動を引き起こす大きな要因となったかを解明しようとした。そのために本研究では、次の３つの問題に焦点を合わせ、研究を行った。

(1)第一の研究目的は、宗教が他者の排除を目的として暴力を正当化するケース（聖戦思想の形成、十字軍、異端処罰など）の分析であり、具体的には、11 世紀以降の西欧カトリック教会が教皇権を中心にして形成した聖戦思想の内容を明らかにすることであり、ウルバヌス２世の第一回の十字軍布告の内容から第二回十字軍での教皇勅書、クレルヴォーのベルナールの聖戦思想の分析、その後、第三回十字軍の布告、第四回でのインノケンティウス３世の勅書といった、13 世紀初めまでの初期の十字軍の勅書・思想を検討して、教皇権にとっての聖戦思想の内容を明らかにし、また、中世後期にピウス２世などにより企画された、対トルコ十字軍における教皇の聖戦思想を明らかにすることも目指した。

またさらに、教皇権が 13 世紀に創設した異端審問制度が孕む暴力性についても検討課題とし、カタリ派対策として出現する異端審問の手引き書、あるいはカタリ派、自由心霊派の異端審問記録などから、異端審問の暴力性を明らかにすることを目指した。またさらに、近世の魔女迫害における異端審問記録から窺える暴力性の問題についても、とくに近世ドイツ地域での魔女迫害を例にして明らかにしようとした。

(2)第二の研究目的は、宗教が暴力を阻止し和解のために機能する場合（寛容思想の形成、異教徒との共生など）であり、具体的には、中世イベリア半島における「レコンキスタ」期のキリスト教徒とムスリム、ユダヤ教徒との共生の問題を扱おうとした。また、近世ヨーロッパの宗教改革期以降に登場する宗教的寛容の思想の系譜についての分析も目指した。

(3)第三の研究目的は、宗教が国家の利害に奉仕し 暴力を容認する場合（近世ヨーロッパの宗教戦争、フロンティア地域での布教など）であり、具体的には、16 世紀以降のフランス、イングランドで展開された宗教戦争と宗派対立の問題を扱おうとした。さらには、中これらの問題を考察することで、中近世キリスト教世界における「宗教と暴力」の相互関係とそれが社会構造に与えた影響を明らかにしようとした。

３．研究の方法

本研究は、中近世キリスト教世界の「宗教と暴力」に関わる問題について、中近世のヨーロッパ世界だけでなく、キリスト教を受容した中南米 ・東アジア地域をも視野に入れた、「宗教と暴力」の具体的な様相についての新しい歴史学的な見取り図を作り、我が国の西洋中近世宗教史研究に新たな視点を提示することを目指した。

そのために毎年、数回の研究会を開催して、上記の（１）から（３）の研究目的に沿ったグループを作り、それぞれのテーマでの研究会やシンポジウムを年に数回、行ってきた。科研期間全体にわたって留意した研究の方法は以下のようになる。まず、十字軍やレコンキスタといった宗教的な戦いについての研究については、それをカトリックの拡大のための聖戦という視点からだけでなく、十字軍やレコンキスタの戦いにより改宗を強制された現地異教徒の側の視点にも着

目し、暴力的な改宗や現地で何をもたらしたのか、また、異教徒との和解や共存の側面も含めて宗教と暴力の問題を扱うことを目指した。それにより、近代に作られた聖戦の神話を批判し、異宗教間の紛争解決のモデルについて議論しようとした。

またそれとともに、中近世ヨーロッパ世界の暴力が意味するものについても再考し、中近世ヨーロッパが自力救済の世界で、暴力がその存在意義を社会のなかで保持していたことも確認し、そうした中世的な暴力がいかに社会の規律化とともに封じ込められ、宗教と暴力の関係が変容するのかという問いを立て、分担者間で討議した。 さらには、近世ヨーロッパでの「宗教戦争」の意義も再考することも、科研研究会で議論の対象となった。ヨーロッパの近代国家は、近世の暴力にあふれた宗教戦争を克服して創出されたと一般的にいわれるが、「宗教戦争」は近代歴史学が作った分析概念であり、そこでは「宗教」＝「暴力」という前提があり、宗教的暴力からの国家の分離、そして近代的世俗国家の成立という道筋が考えられてきた。しかし本研究では、分担者間での研究会における討議を通じて、このような脱宗教化のプロセスと しての中近世国家形成史とは異なる歴史像を形成することを目指した。以上のような目標のために、各分担者が、海外への史料調査や海外の研究者との意見交換も行った。

４．研究成果

研究成果としては、この間に各分担者が日本語の論文として書いた「宗教と暴力」に関する、多くの論考があるが、特筆すべき成果としてはやはり、ヨーロッパの研究者たちと共同で執筆した。二つの論文集を刊行したことといえる。

まず、その一つは 2013 年度から 2016 年度に行った科研・基盤 A「中近世キリスト教世界の多元性とグローバル・ヒストリーへの視角」の共同研究の際に、Fernanda Alfieri 博士らの研究者グループとトレントの「イタリア・ドイツ歴史研究所」で行った、2014 年から 2016 年の 3 回のワークショップ”Medieval and Early Modern Religious Histories:Perspectives from Europe and Japan”の成果を継承し、本科研で内容を発展していくことで刊行することのできた英文論文集、(eds.)Fernanda Alfieri &Takashi Jinno, Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period. Perspectives from Europe and Japan, Oldenbourg 2021.である。これは同研究所の叢書としてドイツの De Gruyter 社から出版された。この論文集には編者の甚野のほか本科研の分担者のうち石黒盛久、黒田祐我、武田和久、皆川卓が論文を寄稿している。それらは以下である。

1.Takashi Jinno, "Tyrannicide as an Act of Divine Justice.The Doctirnes of Tyrannicide of John of Salisbury and Juan De Mariana,” op.cit., pp.63-80.

2. Morihisa Ishiguro,”Violence and Covenant in Machiavelli’s Thinking,” op.cit., pp.95-106.

3. Yuga Kuroda, "Reconquista and Muslim Vassals: Religion, Politics, and Violence on the Medieval Iberian Peninsula," op.cit., pp.127-143.

4. Kazuhisa Takeda,“The Global Expansion of Christian Violence in the Old and the New World: From Early Church Fathers to the Jesuits,” op.cit., pp.143-158.

5. Taku Minagawa, ”Peace According to the Political Theologians of the Holy Roman Empire at the End of the Thirty Years’ War”, op.cit., pp.107-126.

第二の英文成果刊行物は、科研の最終年度の 2019 年 11 月に行った国際シンポジウム"Religion and Violence in Medieval and Early Modern Europe"を発展させた論文集である。この国際シンポジウムでは、Arno Strohmeyer 教授(ザルツブルク大学)と Marco Pellegrini 教授 (ベルガモ大学)を招聘し、中近世ヨーロッパの宗教と暴力についての日欧の研究視点の違いについて議論し、とくに中近世ヨーロッパの宗教と暴力の問題に関するオーストリアとイタリアでの研究動向を把握することができたが、これを受ける形で、Marco Pellegrini 教授が、フィレンツェ大において、彼のイタリア人研究者グループと我々の側との国際ワークショップ ”Guerre di religione e propaganda 1350-1650”の企画を立て 2020 年 3 月に開催されることになっていた。ただ、コロナ禍のために国際ワークショップ自体は中止となったが、このときの報告原稿は、イタリアの出版社から、Stefano U. Baldassarri(ed.), Guerre di religione e propaganda 1350-1650, Roma 2020. として刊行された。本科研分担者では石黒盛久、武田和久、皆川卓が寄稿している。論文は以下である。

1.Ishiguro Mrohisa,”Violenza e sacra alleanza nel pensiero machiavellino, ”op.cit, pp.81-98.

2. Kazuhisa Takeda,”Fighting Confraternities.saints and Angels. A Study of the Christian military culture in the Medieval-Early Modern Iberian World,”op.cit.,pp.185-216.

3. Taku Migagawa, The Revival of Martyrdom and its Religious-social Background from the Council of Trent to the Great Martyrdom of Nagasaki in 1622,” op.cit., pp.99-120.

さらに、本科研共同研究での各分担者の重要な研究成果として、とくに以下のものを挙げておきたい。

1.黒田祐我「中世スペインの辺境都市ー暴力と共生とがせめぎあう場ー」神崎忠昭、長谷部史彦編『地中海圏都市の活力と変貌』(慶應義塾大学出版会、2021 年)、263-278 頁。

2. 三浦清美『キエフ洞窟修道院聖者列伝』松籟社、2021 年。

3.石黒盛久「マキアヴェッリの宗教 : その政治神学における暴力と愛」『金沢大学歴史言語文化学系論集　史学・考古学篇』11 号、2019 年、49-67 頁。

4.Kazuhisa Takeda, “Peace as Integration,” Isabella Lazzarini (ed.), A Cultural History of Peace in the Renaissance (A Cultural History of Peace, Vol. 3), London 2020, pp.133-148.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 黒田祐我	４．巻 724
２．論文標題 レコンキスタにおける降伏文書	５．発行年 2019年
３．雑誌名 歴史と地理ー世界史の研究ー	６．最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三浦 清美	４．巻 10
２．論文標題 『ラドネジのセルギイ伝』 解題と翻訳（2）― 中世ロシア文学図書館（ XIX ）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 エクフラシスーヨーロッパ文化研究ー	６．最初と最後の頁 79-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 皆川卓	４．巻 989
２．論文標題 近世イタリア諸国の「主権」を脱構築する	５．発行年 2019年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 武田和久	４．巻 828
２．論文標題 書評：清水透著『ラテンアメリカ５００年』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 皆川卓	4．巻 10
2．論文標題 （翻訳）アルノー・シュトローマイアー「宗派対立の時代のハプスブルク王朝における諸身分の抵抗と暴力	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エクフラシスーヨーロッパ文化研究ー	6．最初と最後の頁 210-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林繁子	4．巻 127
2．論文標題 回顧と展望・近代―ドイツ・スイス・ネーデルランド	5．発行年 2018年
3．雑誌名 史学雑誌	6．最初と最後の頁 354-361
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武田和久	4．巻 11
2．論文標題 ポリシア、レプブリカ、レドゥクシオン―スペイン植民地宗教政策としてのインカ文明の資源化（16-17世紀）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6．最初と最後の頁 103-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 櫻井康人	4．巻 60
2．論文標題 公会議決議録から見る「十字軍」の変容	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東北学院大学論集・歴史と文化	6．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 Morihisa Ishiguro
2．発表標題 The Violence and Religious Covenant in Machiavelli
3．学会等名 International Symposium "Religion and Violence in Medieval and Early Modern Europe"(Waseda University)
4．発表年 2019年

1．発表者名 Takashi Jinno
2．発表標題 Tyrannicide and Religious Justice-The Doctrines of Tyrannicide of John of Salisbury and Juan de Mariana
3．学会等名 International Symposium "Religion and Violence in Medieval and Early Modern Europe"(Waseda University)
4．発表年 2019年

1．発表者名 黒田祐我
2．発表標題 イベリア半島の騎士修道会をめぐる歴史と議論
3．学会等名 修道会史ネットワーク2019年度第一回研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 皆川卓
2．発表標題 コメント「神聖ローマ帝国史からの視点」、シンポジウム「ロシア人にとって正しいとは何か」
3．学会等名 ロシア文学会第69回全国大会プレシンポジウム
4．発表年 2019年

１．発表者名 小林繁子
２．発表標題 魔女裁判における学識法曹の役割―訴訟記録送付制度から
３．学会等名 日本西洋史学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林繁子
２．発表標題 名誉をめぐる攻防―「魔女」の名誉棄損訴訟と司法利用の戦略
３．学会等名 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所・第9回シンポジウム
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 Toshio Ohnuki	４．発行年 2019年
２．出版社 Kliomedia	５．総ページ数 288
３．書名 Orval und Himmerod: Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350)	

１．著者名 甚野尚志（共編著）	４．発行年 2019年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 415
３．書名 近代人文学はいかに形成されたか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	三浦　清美 (miura kiyoharu) (20272750)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	小林　繁子 (kobayashi shigeko) (20706288)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	
研究分担者	武田　和久 (takeda kazuhisa) (30631626)	明治大学・政治経済学部・専任講師 (32682)	
研究分担者	大貫　俊夫 (oonuki toshio) (30708095)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	石黒　盛久 (ishiguro morihisa) (50311030)	金沢大学・歴史言語文化学系・教授 (13301)	
研究分担者	黒田　祐我 (kuroda yuga) (50581823)	神奈川大学・外国語学部・准教授 (32702)	
研究分担者	櫻井　康人 (sakurai yasuto) (60382652)	東北学院大学・文学部・教授 (31302)	
研究分担者	皆川　卓 (minawata taku) (90456492)	山梨大学・大学院総合研究部・教授 (13501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
International Symposium "Religion and Violence in Medieval and Early Modern Europe"(Waseda University)	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関